

宝酒造・田んぼの学校 収穫編



日 時：2019年10月6日（日）

場 所：京都府南丹市園部町仁江

天 候：晴れ

参加者：約80名（25家族） その他スタッフ多数 noi-kyoto16名

田んぼの学校での自然観察は、田んぼという湿地とそこに
いる生き物、湿地に水を供給する里山の自然を観察していま
す。田んぼと里山を行き来する生き物も多く、たくさんの生
き物がかかわりあっています。また、田んぼでのコメ作りに
人がかかわることで、多様性が生み出されています。1年を
通して田んぼと里山の生き物の変化を生き生きと興味を持っ
て一緒に参加者の子供たちと楽しむことができました。虫を
触ることができなかつた子供が収穫編ではバッタ取りに夢中でした。子供の時の体験が大人になった
ときに生きてくるかも知れません。田植え編から始まった田んぼの学校も収穫編でフィールドはおし
まいです。



収穫編、生き物たちは次の世代に命を託す準備に大忙しです。植物たちはたくさんの実をつけ、動
物や昆虫たちは寒くなる季節の準備をしている様子を、観察することができました。

観察の様子は、写真とともに。

自然観察の講師の方々の感想で報告に代えさせていただきます。 （齋藤）

今年の宝酒造田んぼの学校は、好天に恵まれ第1回から3回迄は、無事終了。

昨年から講師として係らせて頂いたが、悪天候続きで途中から休校となり、
実質今年が初めての様なもの。

小生受け持ちは2家族6名（大人3名、男子3名）で、男の子の遊び相手の様だった。子供達は頭の回
転が速く、動きも素早いので、ゆっくりした説明など出来なく、更々深める事など出来なかったのは、
小生の力量不足か。

好奇心旺盛で成長の早い子供達に追い付くのは難しいが、次年度に向け、自然の面白さ不思議さをコ
ツコツと積み上げて、子供達に喜んでもらえる様に準備したいと思います。 （隅田芳男）

今年の田んぼの学校

私は女の子二人の家族と、男の子と女の子一人ずつの家族の担当でした。なんでも聞いてきてくれ
る子、恥ずかしがりでお母さんのそばを離れない子。みんな田んぼ大好き、虫取り大好きでした。赤
グループは皆一緒に行動。虫が取れたら眞田さんに持って行きます。休憩の時も虫の説明を聞く子、
ミズカヤツリで蚊帳つり遊びを楽しむ子、ゆっくり休む子いろいろあって良いでしょう。スタッフの
グループ構成は、虫、植物、鳥、好きが混ざっているのがベストだと思います。

3回目になってやっとみんなと仲良くなれたのに、今年の子ども達とは終わりです。

いつまでも自然大好きでいてください。 （白石）

今年は2家族で、祖母が女の子の孫を連れて来た家族と、父親が男の子を連れてきた家族を担当した。女の子はバッタなどよりもどんぐりや花に興味があり、その都度見せに来てくれた。祖母は私の説明に必ずメモを取り、熱心に聞いてくれた。

そして、祖母が当観察会のセミの羽化観察も行きたかったのだが、雨のため断念したことを話してくれ、担当者としてはとてもうれしかった。

とにかく一生懸命なので、この家族ともっと生き物の話をしたかった。もう一方の家族の男の子はやはりバッタが大好きだ。無数とっていいほどいたので、退屈することなく楽しんでた。

稲刈り終了後の室内でのまとめノートを見てみると、子供二人のイラストはよく描けていて、真面目に収穫編に取り組んでいたことが非常によくわかった。今年は稲がシカの被害を受けて収穫量が減ってしまったことが残念だと言っていたのが印象的だった。
(弓削)

いよいよ 稲の収穫の日です。

その前に自然観察。私は一人っ子の家族と3人兄弟の家族を担当しました。

田植え編の時に初めて会った時から5ヵ月、稲と同様皆見違える程大きくなっていたのには、びっくりしました。

女の子が多くてお花に興味があったのでやりやすかったです。シロツメグサの首飾りやアオツヅラフジのリース、カキの葉のお雛様を作って遊ぶと、とても喜んでくれました。

一人だけだった男の子は、虫取りに夢中でした。一人っ子の女の子は、初めとてもおとなしかったけどだんだんお話してくれるようになり、今回はエノコログサからネコのお話。お家にも年老いた猫を飼っているとのこと、どんどん話しがふくらみました。

ちよっと目をはなすと三人きょうだいの末っ子が飛び回っています。活発でとても可愛い女の子でした。

今回も子供達と楽しい時間を過ごせました。
(出口)



コガマ ウィンナーみたい！種がいっぱいつまっています

今回は怪我することなく、自分の役割を果たせて良かったというのが一番の感想です。

普段大人を相手に説明することが多いので、子供相手にどのような表現をするかが難しかったです。何とか話を聞いてもらえたかなと思います。捕まえたカマキリとの別れを惜しんで、顔に触れるぐらいの距離で(顔によじ登らせていました)、見つめていた男の子がいたのが印象的でした。その男の子に限らず、自然から何か感じるものがあったであろう子供たちが今後どのように成長していくのか楽しみになりました。
(辻智也)

秋は行事が多く、土日に仕事が入りますので今回は下見に参加できず、講師を外れました。今回戴いた役目は、全体を見守りながら、記録写真を、とすることでしたので、4グループ全体を渡り歩きながら写真を撮りました。

今回は全体を拝見しましたので、私が今後講師として参加する際に課題になることをたくさん見つけました。ひとこと言えば、「もっと、勉強が必要。」です。私のグループに当てはめられた子どもたちは、ひよっとするとあまり楽しくなかったのではないかと感じました。もっと視野を拡げることが大事です。

昆虫についてよく知っている子ども、本当に驚きます。こちらが教えられている始末。子どもにかなわないことはわかっていますが、せめてもう少し面白くしなければ、とよくわかりました。反省でした。
(羽田)

田んぼの学校も5回目になるが、新しい家族との出会いはやはり緊張する。

田んぼの学校は、「五感を使って観察する」がテーマである。田植え編では、積極的に臭いに特徴のある植物の臭いをかいだり、ネバネバする花や刺のある植物に触ってもらったりした。味についてはこちらがまず見本を見せることで味わってもらった。最初、子ども達には抵抗があったが、親にしてもらうことで挑戦できた。

季節による動物や植物の変化を感じてもらうためクサグモの幼生とフジの花を見てもらった。アカメガシワの若葉で紙にスタンプしたり、ススキの葉の笛は何度も挑戦したりする姿が見られた。

草取り編では、コガネグモとクサグモの網の張り方の違いから、餌の取り方の違いを考えてもらったり、クサグモの大きさを見て春との違いを実感してもらったりした。フジの花が実に変わっていることも観察してもらった。クリの花のにおいや雌花も見てもらった。

シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルの卵塊が昨年より少なかった。

コガマの葉に鹿の咬み跡、田んぼには、イノシシ、シカ、アライグマと思われる足跡、道にテンカイタチの糞などがあり子ども達も興味深く見ていた。

収穫編では、クサグモの巣の跡、フジ、クリの実の変化を実感してもらった。

イナゴ、カマキリ、コオロギなどの昆虫がたくさんおり、それらを必死にとっており、楽しい時間が過ごせていた。イナゴとカマキリを同じカゴに入れ、カマキリがイナゴを食べているのをずっと見ていた子どももいた。

今年は稲が自然災害の影響を強く受けた印象が強い。草取り編では、ドロマシのために稲の生育が遅れていた。収穫編では獣により稲穂が食べられたようで収量が少ないようであった。

(梅田)



捕まえられたよ！



みてみて！たくさん捕まえたよ

今回の自然観察ポイント授業では、オオオナモミの実がたくさんできている里山エリア入り口と里山へ少し進んだヌルデの木の下で行われました。オオオナモミのダーツ遊びを通してひつつきむしの事を、ヌルデの虫コブ（ヌルデミミフシ）の説明ではヌルデとヌルデシロアブラムシとの不思議な生態を聞くことができました。田んぼのワンポイントスクールでは、栽培種の稲と他の野生種イネ科の植物との違いを、実物を触ったりする体験をしてもらい、具体的に、わかり易く説明がなされ、いずれも子供たちの目をくぎ付けにしていました。

自然観察順路で子供たちは、いつもの如く動く生きものには大変興味を示し、各種のバッタ、コオロギ、キリギリス、トンボ、チョウ、カマキリ、クモ、カエル等、捕まえる狩猟本能を発揮、野草や花の名前を教えてもらってノートへ・・・、付き添いのお母さんも熱心で、途中の復習で、植物の名前を親子とも直ぐ言えるほどの参加者も現れました。

園部町仁江のフィールドは多様な自然環境と多種の生き物が生息する貴重な場所だといつも感じています。自然観察に割り当てられた時間も直ぐ経過し、名残り惜しかったです。

本日の自然観察授業がスタートしてすぐ、近くに鹿の鳴き声をはっきり聞こえ、田んぼには足跡だらけ、直ぐ後に控えた山へは獣道が、幾筋も泥のついた草と共に目立ちました。今年は稲の穂が相当鹿の被害を受けたので、収量に影響かもといわれた挨拶時の話が納得できました。

他に過去との違いで感じたことは、ススキ、チカラシバ、キンエノコログサ、ヒメジソの増加、コガマが株を増やしていたこと。トンボでは一昨年電線にまで並んで止まっていた多数のノシメトンボの姿は殆どなく、しかしアキアカネは田んぼの上で見られました。クビキリギスやクサキリの成虫個体数も例年より少なく、一方コバネイナゴの個体数が多く大変目立ちました。また、オオスズメバチにしばしば遭遇し、しかも見ることも少ない生態・・・カマキリや、コバネイナゴを捕食するという貴重な現場観察体験ができました。注目の発見が稲刈中の田んぼでありました。カヤネズミの巣が二つです。中に子供がやすんでおり、親ネズミの出入りも観察しました。初めての発見でした。

(眞田幹雄)



ワンポイント真剣に話をききます



ひつつきむしダーツは大人気



オオアオイトトンボ



ノシメトンボ

“ケロッ田” 田んぼの実りの収穫は豊作とはいえないようでした。台風の被害やシカさん達の食料になった模様。でも、それがまた自然豊かな里山と田んぼならではの、体験になるのだと実感しました。

ひっつきむしが、ズボンにいっぱいついてチクチクして困っていた男の子、虫取りが大好きな女の子、百人一首を覚えていて柿の葉っぱで十二単を作っていた女の子（緋扇の工夫が上手）、顔なじみになった子供たちとは名残惜しい気がしましたが、ワンポイントスクール、ひっつきむしダーツ、ヌルデミミフシの虫こぶの解説など盛りだくさんの観察で、親子さん達、楽しく貴重な経験ができたことでしょう。

私も全篇を通して自然の営みの変化など、学ぶことができました。また、ここに集う動物たちのフィールドサインは、代表が言われていたように、“ここをかき分けて、こう下りてあそこまで行ったのかなあ”などと想像してみることで、中々楽しい観察になりました。

締めくくりの、苛酷な稲刈り、脱穀（千歯こき、こきばし）体験も見ていただけの私にはおもしろかったです。そして、ちょっと嬉しいことには、カヤネズミの巣を子が巣立つまで刈らずにそっと残しておこうという配慮があったことでした。

そんな生き物田んぼ、さて来季はどんな変化が待っているかな。ちなみに、収穫したもち米は、この辺りの固有品種、‘新羽二重もち’ だそうです。（榎 三津子）

朝から好天気？（時々時雨）に恵まれた中自然観察。
「今日は、「虫取り」でにぎやかになるだろうなア」
想像通り、始まるや否や虫取りにねっしんな子供たちが多く、実りの季節だけに、植物の実のなるものが題材になりやすい。

「猫じゃらし」一つをとっても、正式な名前はエノコログサと言ひ、これはエノコログサ、隣はアキノエノコロ、それはキンエノコロと観察が始まる。

山裾から少し入ったところではオオオナモミの実が一杯。早速「ひっつき虫」と言いながら服に投げつけてくっつける。あっという間に楽しい午前中が終わる。

午後は稲刈り・・・収穫の喜びをうんと味わって貰おう！

（宮城）



観察開始ゆっくり進みます



カマキリを捕食するオオスズメバチ



セイヨウタンポポの説明 みんな真剣です



頭の上にクリの実



イナゴを捕食するオオスズメバチ



ヨメナ



クモってすごい!!



これはなに？



針がいっぱいオオオナモミ



ヌルデにできる虫こぶヌルデミミフシ



ワンポイント これは何でしょう



はなたば



コガマはフランクフルトみたい



赤とんぼ アキアカネ



カヤネズミの巢中に赤ちゃんもいます



コンペントウみたい ミゾソバの花



濃いピンクの花が目を引きます
ゲンノショウコ



頑張って稲刈り



アキノタムラソウ